

規制改革推進会議「公開ディスカッション」終了後記者会見 議事概要

1. 日時：平成31年3月11日（月）16:50～16:59

2. 場所：三田共用会議所 3階 大会議室

3. 出席者：

（委員）大田弘子（議長）、長谷川幸洋（公開ディスカッション担当）、原英史（投資等ワーキング・グループ座長）

4. 議事概要：

○大田議長 それでは、これから記者会見を行います。

今日は、議論をお聞きいただいていますので、私のほうからの説明はありません。

御質問をお願いいたします。

どうぞ。

○記者 世界一になるというのは非常に夢がある、非常に現実的な話だと、実は思っています。質問は何かというと、まず、つくばの例を挙げられて、これが非常にいいものだとおっしゃられていました。ただし、5年後に、これが新しいものだとは思っていません。5年後に具体的にどのような形にするのかということは、イメージされているものは、どこかに出ているのでしょうか。それとも、どうなのでしょう。どこかに書かれていたり、ビジョンを示されているものがあるのでしょうか。

○原座長 いや、どこかに書かれているものは古いと思いますので、最先端のものを常に探していけないといけないというのが、この世界だと思います。

○記者 なるほど。

他に質問がなければ、私のほうから、実は質問をしたいと言った中で御提案したいことがあります。

まず、今のような部分最適化の議論では、結局のところ何も進んでいかないと思っまして、その中で、飛び抜けた1位になるときには、やはり、どこかを減らして、どこかを増やすという選択と集中が必要だと考えています。その選択と集中は、予算の面でもそのようなことだと思っています。

その中で、私が提案したいのは、小中高の中の9割を占める知識、技術を伝達する方の授業、あとの10%はコミュニケーション型の授業ですけれども、この9割を全て教科書だけではなくでデジタル化してしまうという提案です。

ただし、そのデジタル化、映像化は、通常は検索エンジンに余りマッチしません。ですので、話している知識、技術を伝達する側の教員の言葉を全て音声認識装置にかけてスク립ト化してしまう、字幕化してしまう。その上で、ウィキペディアのようなつながりを

つけられるような形にする。

今日、話し合いになられていた中で、ワン・トゥー・ワン、個別最適化の提供をするところについて、これは、1つは学習者のほうのログ、それから、個性などを全てタグ化していく必要があると。

その上で、もう一方のコンテンツに関しても全てタグ化していく必要がある。そのために、恐らくスクリプト化が必要で、検索エンジンに載る形、タグ化が必要であると。その上でマッチングを図っていくということが必要ではないかと。

このソースは何かというと、今ある、毎日毎日5万件ぐらい流れている一般のリアルな授業を安いコストでスクリプトをつけて、ウィキペディア型にする形でネットワーク上に上げて、流通させて、誰でも選べるような形にする。これが必要ではないかと考えています。

そうしていくと、教室の中で行われている授業の形態が変わってくると、片山大臣が言われていたように、今、つくばのモデルがどうしても他のところで入らないのは、恐らく教員の負担が非常に過酷なものであるからだと思います。

ここの負担の大きい部分を占めるのは、恐らくティーチングであって、そのティーチングを動画あるいは先ほどの授業のような形態に変えていくということで、コンシェルジュであるとか、レコメンダーであるとか、そういった役割に変えていくことができると思います。

あと、もう一点提案は、そのコンテンツを流通させるためのプラットフォームをつくることだと思います。

今は、コンテンツ自体、あとは技術的な部分、もっとレイヤーが低いところの層について議論されていますけれども、これを流通させるプラットフォームが必要で、これによってマッチングを図るときのもともとの資料になると思っています。このデータベースをつくる。それから、その流通のプラットフォームをつくることだと思います。

言いかえると、今、音楽は、例えばiTunesで得られていますけれども、これと同じような形の流通のプラットフォームをつくるべきだと思います。

この流通のプラットフォームによって、教育の提供者、例えば、どこか北海道の塾の先生でも、学校の先生でもいいコンテンツをつくって、その動画を上げて、それで検索されて使われたら、その人に正当な報酬が入ってくるような形になる。こういったプラットフォームを、音楽のiTunesに匹敵するような教育のプラットフォームをつくるべきだと考えています。

長くなってしまいましたが、そのように考えております。

○大田議長 御提案ありがとうございます。勉強になりました。

ただ、現実の規制改革は、一つ一つの壁を乗り越えていくような議論になります。今日、「世界最先端」ということにこだわったのは、まさにおっしゃったように、個別ではなく、全体として何を目指していくのかという議論の路線に乗せたいという思いがありました。

もし、その合意がとれるならば、いろいろなことで、今御提案をいただいたようなことも含めて、知恵の結集がなされるのだろうと思います。

○原座長 その世界最先端とは何なのかがよくわからないみたいな議論も先ほどありましたけれども、それは、まさに御提案いただいているような内容を、いろいろな方からいただき、また、世界の事例も見て、国内で、今日お話のあったような本当に進んだ事例、いろんなものを学びながら設定をしていくということになるのだろうと思います。

そのときに、議長からも、議論の中でも最先端の事例を横展開していけないのかという議論になりましたけれども、これは、問題意識の高いところだったらできるのですとか、そういう精神論とか、そんなところにとどまてはいけなくて、それを展開するために何を制度的に解決したらいいのか、政策的に何をやったらいいのかということを考えていかないといけない。

そのために、私たちは、今日議論していたようなお金の問題、最低限のICT環境をどうするのかとか、あるいは、今日十分に議論が尽くせなかったですけども、教員のあり方、教員の負担の問題というのが、新しい未来の教育に踏み出していく上での大きな制約になっているのだとすれば、そのあり方というのは、これまでのような校務については、ちょっと負担を別の人にやってもらいますよというレベルのことではなく、より抜本的なあり方の見直しというのを私たちは議論をしていかないといけないのだろうと思います。そこを、ぜひ、また引き続きやっていければいいのではないかと思います。

○大田議長 よろしいですか。では、これで記者会見を終わります。

ありがとうございました。